

## 決算説明会 主な質疑応答

開催日時：2026年5月25日 本社（澁澤シティプレイス永代）にて

出席者：取締役社長 大隅 毅、取締役専務執行役員 倉谷 伸之

上級執行役員 経理部長 池田 覚、上級執行役員 総合企画部長 森山 宗樹

Q1：荷主との価格交渉の状況について

回答：お客様へ価格転嫁の必要性を説明しており、理解が得られるようになってきている。大手企業においても、取適法や行政諸施策の浸透もあり、価格転嫁に加え従来未収受であった付帯作業料への理解も深まっている。着実に交渉が進展していると認識している。

Q2：中東情勢の業績への影響について

回答：直接的には、燃料費のコストアップの他、荷役作業で使用する包材の入手難などが挙げられる。間接的には、各種資材不足の広がりによる減産等で取扱量にも影響が及ぶ事も懸念されるが、現時点においてはそうした事態にはなっていない。長期的には、全体的な物価上昇に伴う消費減退が発生した場合の影響も想定される。いずれにせよ、現時点では不確定要素が大きいいため、業績予想には織り込んでいない。

Q3：買収する名鉄ワールドトランスポート株式会社への追加資金投入の要否について

回答：名古屋鉄道の保有する全株式と親会社貸付債権をセットで譲受し、譲受後速やかに貸付債権の株式化（DES）を行い、資本を回復する。追加の資金投入は必要ない。

Q4：名鉄ワールドトランスポート子会社化による業績下振れのリスクについて

回答：現在、当社連結決算への影響は精査中であるが、同社の事業による期間損益の赤字は国内倉庫事業によるものが主であり、この分野に知見蓄積がある当社のPMIにより黒字化は容易であり、当社グループとの各種シナジーにより国際輸送業務を中心に業績へのプラスの寄与が想定できると考えている。

Q5：株主還元強化と成長投資や財務安定性との関係について

回答：現状の財務格付維持を前提に財務レバレッジを活用し、将来成長に必要なM&Aや成長投資は引き続き積極的に行っていく。そのうえで株主還元の強化に取り組んでいく。

Q6：TOPIX 構成銘柄見直しへの対応について

回答：今年10月のTOPIX見直しは十分認識している。一方で現在の株価は当社の現状および将来への評価がまだ十分反映されておらず、適切な評価が受けられればTOPIX構成銘柄に残る事はできると考えている。適切な評価が受けられる様に確りと取組みを行っていきたい。

以上